



「赤城特別支援学校」の使命



群馬県全域の病弱・身体虚弱の児童生徒のための学校教育の充実

- 1 院内教室等のある病院に入院または自宅から院内教室等に通学する児童生徒、自宅で訪問教育を受ける児童生徒への教育提供
- 2 院内教室等のない病院に入院している児童生徒への教育提供
- 3 病弱・身体虚弱教育に係る小学校・中学校・高等学校等への支援

教育目標

児童生徒一人一人が、自己を大切にするとともに、自立と社会参加を目指して自ら学び、好ましい人間関係の中で明るく元気に明日へ向かって生きる豊かな人間性を身に付ける

校 訓

学ぼう、明るく 仲よく 元気よく

教育方針

教育目標の達成に向けた教育基盤を作るために

- (1) 目の前の児童生徒のために、個々に応じたより良い学習環境を整える
 - ・ 医療機関・前籍校・保護者との情報交換を丁寧かつ適切に行い、「児童生徒にとってより良い指導・支援は何か」を常に考え、すべての職員が協働する。
- (2) 児童生徒が楽しく主体的に学べる教育を実践する
 - ・ ICTの効果的な活用や少人数指導の利点を生かした個別最適な学びをとおして、児童生徒の「なんだろう?」「どうして?」を引き出し、「わかった!」「できた!」を積み重ねることで、一人一人の可能性を伸ばす。
- (3) 児童生徒の考える力を育て、社会性を磨くために、「つながる経験(児童生徒同士・教員・地域等)」を大切にする
 - ・ 外部人材やICT等を積極的・効果的に活用し、生活に制限がある中であつても児童生徒が経験を広げ、社会性を磨くことができる機会を増やす。
 - ・ 赤城特別支援学校の教場間、居住地校、地域等との交流を積極的に実施する。
- (4) 児童生徒及び保護者の心の安定を図り、病気と向き合う気持ちを支える
 - ・ 児童生徒及び保護者の話を丁寧に聴き、病状や心情に寄り添った支援を行うことで、自己を肯定的に捉え、病気を受け止め前向きに生きようとする気持ちを育てる。
 - ・ 「自立活動の時間における指導」を中心に、教育活動全体で自立活動との関連性を意識した指導を実践することで、個別最適な学びのための基盤を整える。
- (5) 感染症や災害等への対策に万全を期し、児童生徒の安全を確保する
 - ・ すべての職員が、医療機関の助言やエビデンスを参考に作成した感染症拡大防止のための対応方針を共通理解し、取組の徹底に努める。
 - ・ 関係機関と連携して防災等の各種訓練を定期的実施し、不断に見直すことで、職員一人一人はもちろん、組織としての危機への対応力を高める。

経営方針

すべての職員がやりがいをもって職務に専念し本校の使命を果たすために

- (1) 「児童生徒にとってより良い指導・支援は何かを中心に置いた対話と協働」
 - ・ すべての職員が、県内唯一の病弱特別支援学校としての使命を自覚し、「児童生徒にとってより良い指導・支援は何か」を常に中心に置いて考え、対話し、協働する。
- (2) 「教育ニーズや状況の変化への適切かつ柔軟な対応」
 - ・ 医療機関、保護者、職員間の連携を密にし、児童生徒の転出入や治療計画の変更はもちろん、病弱教育を取り巻く社会状況の変化等を的確に捉え、組織として柔軟かつ適切に対応する。
- (3) 「3つの学部・8つの教場を超えた連携・協力の推進」
 - ・ 「赤城特別支援学校は一つ」であることをすべての職員が意識し、日頃からコミュニケーションを大切にしながら相互の信頼関係の醸成に努め、同僚性の高いチームを構成して連携・協力する。

(4) 「専門性の向上と職能成長」

- ・ 教育目標の達成と職員自身の成長のため、校内外の研修に積極的に参加して専門性の向上を目指すとともに、研修履歴を活用した管理職との意見交換等を通じて自身のキャリアに関する現在及び将来について考え、実践することで、職種や経験に応じた職能成長を図る。

(5) 「ICTの積極的・効果的な活用」

- ・ 児童生徒の個別最適な学びを実現するための手段として、すべての教員が授業における必要な場面においてICTを活用し、そのスキルを高めることができるよう、計画的な研修の実施や教員同士の学び合いを活性化させる。
- ・ 従来型の対面による良さも生かしつつ、ICTを活用した会議や研修、校務支援システムを活用した業務処理等のデジタル化等を積極的に進めることで、業務の効率化や働き方の改善を図り、ゆとりを持って児童生徒と関わる時間を確保する。

(6) 「医療機関等との連携の強化」

- ・ 医療と教育の枠を超え、児童生徒一人一人に応じた適切な指導・支援を行うため、日頃から互いの専門性や立場を尊重し合う関係性を大切にするとともに、学校・病棟連絡会議等における児童生徒の健康状態や治療計画、学校生活の様子等に関する積極的な情報交換に努め、共通理解を図る。
- ・ 転出入時の情報交換や教材等の引継等はもちろん、入院中も児童生徒が地元の学校とのつながりを持ち続け意欲的に入院生活を送ることができるよう、本人及び保護者の意向を踏まえながら、交流及び共同学習を適切かつ効果的に実施する。

(7) 「職員の心身の健康維持」

- ・ 授業や分掌業務等に関する悩みごとを同僚や管理職に相談しやすい風通しの良い職場環境づくりに努め、職員の心理的安全性や同僚性を高める。
- ・ 職員一人一人がやりがいを感じながら働き、職責を果たすことができるよう、学校行事の必要な精選や業務のデジタル化等に取り組むことで業務の改善を進め、調和の取れた働き方を目指す。

(8) 「カリキュラム・マネジメントを活かした学校経営の推進」

- ・ 病気による入院・治療に伴う生活の制限や学習の遅れ等の困難さを抱える児童生徒の実態を踏まえるとともに、教科横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育課程を編成・実施することで、学校全体で教育目標の達成に向けた教育計画の立案と授業の質的向上を目指す。
- ・ 教育に必要な人材・資源を積極的に外部に求め、リスクを管理しながら「社会や人とつながる」視点を取り入れた教育活動を推進する。

教育公務員としての自覚を持ち信用失墜行為を起こさないために

(1) 「服務規律の確保を徹底する」

- ・ 日頃から安全運転を心がけ交通事故防止に努める。
- ・ 飲酒及び酒気帯び運転は絶対にしない。
- ・ 児童や保護者とのSNSによる私的なやり取りは絶対にしない。
- ・ SNSによる発信については、内容及び個人情報の保護に十分気を付ける。

(2) 「学校職員としてふさわしい言動や身だしなみ等の徹底」

- ・ 相手が誰であっても丁寧な言葉遣いや誠実な態度で接することを心がける。
- ・ 相手を不快な思いにさせることがないよう身だしなみに十分気を付ける。
- ・ 病棟(アイソレータや無菌室等を含む)へ入ることもあるため、衛生面には十分気を付ける。

(3) 「児童生徒、保護者との信頼関係の構築」

- ・ 児童生徒や保護者の話は終わりまで真剣に聞き、思いを受け止めたうえで教育の専門家としての助言学校の考え方を伝え、理解を得るよう努める。
- ・ 児童生徒や保護者との適切な距離を確保するとともに、電話による連絡が必要な場合は学校の電話を使用する。

明るく笑顔の多い職場を目指し、お互いを尊重して協力し合いましょう



「あかのん」とは、平成25年度に校内で開催されたゆるキャラグランプリで第1位を獲得したゆるキャラです。平成25年度に群馬中央総合病院分教室に在籍していた中学部2年生の小林安奈さんが考案しました。その後、赤城特別支援学校のマスコットとして全校で知られるようになりました。